

○児童が自分の思いや考えをもち、表現したり深めたりする授業の実践  
○認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

**学力向上推進員**  
委員 校長：中野勝邦 教頭：大荒美臣 教頭：佐瀧真弓 教務：三浦弘章  
指導教諭・5年主任：久保純子 指導教諭・2年主任：西山あけみ  
6年主任：佐伯順一 4年主任：増田彩子  
3年主任：横山由香里 1年主任：大泉和代  
研修主任：森美帆 特別支援学級主任：平美由紀  
若手教員研修主任：日下直毅

校長  
中野勝邦 印

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○学習に真面目に取り組む児童が多く、基礎・基本的な知識・技能は、身に付いてきている。 ●学力の二極化傾向が見られる。基礎・基本的な知識を活用することに課題がある。	・既習学年や当該学年の基礎・基本的な知識や技能を確実に習得することができる。 ・身に付けた知識や技能を他の学習や生活の場面において活用することができる。	・正確に読み取らせるために、教科書にアンダーラインや囲みを入れたるに捉えさせる。 ・ドリルやプリント、タブレットを活用して、既習事項を繰り返し復習できるようにする。 ・光る子十カ条を徹底し、授業や家庭学習にじっくり取り組む習慣をつけられるようにする。			

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○友達の意見を聞こうとする態度が身に付いてきている。 ●根拠を明確にして自分の考えをもち、思いや考えを表現したり、伝え合うことで、さらに考えを深めたりすることに課題がある。	・各授業の課題等に対して話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・話を最後まで聞き内容を理解し、自分の考えを明確にもって適切な言語活動により表現したり、深めたりすることができる。	・ホワイトボードやメモ・付箋を活用して自分の思いや考えを書く場面を増やし取り入れる。 ・ペア学習での意見交換やグループ学習の話し合う機会を効果的に設定する。 ・児童の発表の内容に応じ、更に考えが深まる発問を行う。			

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○授業に一生懸命取り組む。与えられた課題には、真面目に取り組む。 ●自分で課題を見つけて、工夫して学習に取り組もうとすることに課題がある。自尊心が低い。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・学ぶ楽しさや喜びを感じることができるとともに、自分に自信をもつことができる。	・何を学ぶのが伝わるよう、授業のめあてを提示するとともに、ノートやワークシートなどで学んだことを振り返る場面を工夫し設定する。 ・児童のがんばりや成果を褒め、達成感や次時への意欲、課題意識をもてるようにする。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

